

第111回 火力専門委員会 構造分科会 議事録

I. 日 時：2021年2月10日（水）13時30分～17時00分

II. 方 法：WEB会議（Webex使用）

III. 出席者：飯田（東電HD）、茂山（電中研）、西田（三菱パワー長崎）、
西野（配管技術研究協会）、田村（三菱パワー 日立）、太原（東芝 ESS）、
小原（IHI）、横山（川崎重工業）、小高（富士電機）、南條（関西電力）、鈴木（JERA）、
喜納（沖縄電力）

代理者：藤田（三菱パワー長崎：豊嶋委員代理）

オブザーバー：なし

欠席者：なし

事務局：花井

IV. 資料（CS キャビネット 構造分科会会議資料登録）

111-1 第110回構造分科会議事録（案）

111-2 構造分科会委員名簿

111-3 第94回火力専門委員会議事録（案）

111-4 第96回規格委員会議事録（案）

111-5 （欠番：用語集の更新無し）

111-6-1 規格委員会書面投票 No.477（第V章 配管 改訂案）意見対応案

111-6-2 第V章配管 規格委投票 No.477（第V章 配管 改訂案）意見対応案反映の新旧対比表

111-7 第IV章压力容器 新旧対比表

V. 議題

1. 前回議事録確認

【資料111-1】

前回議事録（案）の確認を行ない、議事録案は承認された。

2. 分科会委員・役員の承認

【資料111-2】

新任委員候補者、再任委員候補者、退任委員ともに無し。

3. 報告事項

(1) 火力専門委員会報告

【資料111-3】

12月11日開催の第94回火力専門委員会の主要項目が報告された。

○火力専門委員会委員、各分科会委員の承認

○第110回構造分科会（11/26）の報告

飯田構造分科会主査から規格委員会書面投票 No.477「発電用火力設備規格 詳細規定（202X年版）第V章 配管 改訂案」の承認の意見対応に関しては、全ての意見者の1回目の意見対応案の回答があり、更意見のあった3名の意見者の更意見の内容確認と対応案の審議を行ったことが報告された。

○材料専門委員会報告

火力からの検討依頼を行っている材料に関する進捗状況の説明が行われ、その後に火専と協議したこれら新規材料の許容応力値の信頼性のあるクライテリアの提示方法（下記の新材料事例規格）の説明、更にヒートごとにばらつきのある材料の許容応力の出し方（信頼水準）に関しての説明が報告された。

○JSME 規格電子配信検討状況報告

○審議事項

- ・規格委員会書面投票 No.477（第Ⅴ章 配管 改訂案）の意見対応案
更意見に対する対応案の説明と審議が行われた。

- ・新材料事例規格について

JSME 独自に含有成分範囲、許容応力値を決めて新規材料を登録する場合には、事例規格として許容応力には安全係数を掛け登録し、その後ヒート数の増加や経年データの収集/評価後に係数を無くし詳細規定に取り込む方法が検討され、このフォーマットが示された。今後内規案を作成することとなった。

(2) 規格委員会報告

【資料 111-4】

12 月 24 日開催の第 96 回発電用設備規格委員会の規格委運営及び火力関連事項に関して報告された。

○火力専門委員会(12/11 開催) 報告

○規格委員会運営規約の改定の審議

- ・意見対応の回答期間の明記、委員長任期を最長 8 年とする案。
- ・審議の結果、規格委員会書面投票の実施が承認された。

○専門委員会運営規約の改定の報告

- ・改定の目的は規格委運営規約との不整合の解消、電子配信の取り入れ
- ・4 専門委員会で書面投票実施のメール審議の後、書面投票を行うこととなった。

○発電規格の電子配信に関する検討状況報告

○火力用発電設備規格に関する審議

- ・第Ⅴ章配管改訂案の規格委員会書面投票 No.477 の意見対応の状況について報告が行われた。

4. 審議事項

(1) 用語集の確認

前回分科会から今回までに、新たに登録/更新された用語は無いことが報告された。

(2) 規格委員会書面投票 No.477（第Ⅴ章 配管改訂案）の意見対応による修正を反映した改訂案（新旧対比表）審議

【資料 111-6】

規格委員会書面投票 No.477 の意見による詳細規定第Ⅴ章配管改訂案の修正の審議を資料 111-6 の新旧対比表を用いて行った。なお、以下の点に関しては修正を行うこととした。

【121.7.6 防振器（スナッパ）】

No.102 洪敏委員の『①「油圧または機械式」とあるので“衝撃緩衝機”とは所謂“スナッパ”であると理解しましたがOK でしょうか？もしそうであれば“スナッパ”と表現した

方がよいと思います。またAPPENDIX II 中では「防振器（スナッパ）」との用語も使用されているので、それに合わせるのもよいかと思います。』修正もれ有り。

【127.2.1 溶接棒および溶加材(G)】

『・母材金属と異なる機械的性質の溶接部を得ることが求められる場合』

最後の箇条書き4行のうち最下段行だけが太字に見える。確認の結果、この行のみフォントが違っていたため、揃える。

【127.4.2突合せ周溶接(C.1)】

『・適切な実施に適した者であること。』の表現がよくないため、見直すこととした。

なお分科会終了後、西野委員に再度修正案を確認いただき、修正すべき点を指摘いただいた（2月10日）。以下の2点を修正することとし、主査より担当委員（小高委員、鈴木委員）宛に修正指示がメールにより行われた（2月12日）。

【100.2 定義 「スペシャルティ」】

現案だと、流量計より前に書かれた全てのものが計装品のように受け取られるおそれがある。

（現案）～、ストレーナ、スチームトラップ、サイトグラス、流量計などの計装品等の総称。

（修正案）～、ストレーナ、スチームトラップ、サイトグラス、流量計などの計装品、等の総称。

【120.2.2 バリャブルサポートおよびコンスタントハンガ】（用語の統一）

意見No.97対応の121.6の用語との統一が必要。更に「スプリング式またはカウンタウェイト式などのコンスタントハンガ」のように「式」を入れた方がしっかりした文章になる。

（現案）バリャブルサポートおよびコンスタントハンガ

バリャブルサポートおよびスプリングまたはカウンタウェイトなどのコンスタントハンガの荷重計算は、～

（修正案）スプリング（バリャブル）ハンガおよびコンスタントハンガ

スプリング（バリャブル）ハンガおよびスプリング式またはカウンタウェイト式などのコンスタントハンガの荷重計算は、～

(3) 第IV章 圧力容器改訂案(新旧対比表)審議

【資料 111-7】

詳細規定第IV章圧力容器改訂案の審議を資料 111-7 の新旧対比表『新旧対比表_12ASME-Sec4-UG40～55』『新旧対比表_12ASME-Sec4-APP4』を用いて行った。なお、以下の2つの点に関しては修正を行うこととした。

【APP4 図4-1 並んだ円形指示模様】

『新旧対比表_12ASME-Sec4-APP4』図 4-1 において『注：12t の範囲において、L1 から LX までの合計値が t の値を超えないこと。』と文章の前に『注：』を足したが、この部分に改訂部であることが分かるようなアンダーラインが抜けているため、アンダーラインを付加する。

【APP4 図4-7 t が50 mmを超え100 mm以下】

『新旧対比表_12ASME-Sec4-APP4』図4-7において図の表題『(b)独立指示模様』と『(c)密集指示模様』が隠れて見えなくなっている。見えるように配置する。

5. 次回開催予定

開催日時： 2021 年5月 20 日（木） 13 時 30 分～17 時

開催方法： WEB 会議（Webex）による

議題：第Ⅳ章 圧力容器の改訂案審議 （及び 第Ⅴ章 配管書面投票（2 回目）意見対応）

以 上